英語で地域の魅力を発信できる生徒の育成

～学校独自の英語学習テキスト Welcome to Nikaho を用いて～

秋田県立仁賀保高等学校　教諭　畠山　陽子

１．はじめに

本校は、にかほ市と連携協定を結んでおり、学習活動・学校行事において、地域貢献・活性化につながる活動を取り入れている。英語科の授業においても、自分たちの地域のことを英語で発信することを学習目標の一つとし、様々な活動を行ってきた。昨年度からは、本校独自の英語学習テキストである*Welcome to Nikaho*を用いて、地域のことを学び、それらを他者と共有する活動に取り組んでいる。

この指導事例集では*Welcome to Nikaho*を使用した事例を紹介するが、教科書や他の教材でも応用できると考えている。

２．Welcome to Nikahoについて

Welcome to Nikaho（以下、本冊子）は、前ALTのJohann Botha先生と英語科教員が、にかほ市の協力を得て制作した。地域の観光・レクリエーション・公園（Sightseeing・Recreation・Park）、英語表現集（Situational Expressions）をまとめた冊子であり、全校生徒に配付し英語の授業で活用している。

３．指導・取組の実際

本校の学習到達目標リスト[CAN-DO LIST]のSpeakingにおける下表の目標を達成するための取組として、本冊子を段階的に用いて、１年生から３年生へと徐々にレベルアップすることができるように活動を行っている。TT授業での学習を基本とし、１年次は本冊子の各場所の基本情報、２年次は各場所の詳しい情報、３年次はさらに詳しく地域の場所やその魅力等について学習している。また、地域の魅力（場所・特産品・おすすめの店等）を紹介するプレゼンテーションも行っている。１年次はグループ発表、２・３年次は個人発表とし、インタラクションの方法も段階的にレベルアップした質疑応答となるようにしている。

今回はそれらの活動から、２年生で行った活動Aと、３年生で行った活動Bについて、それぞれの活動の成果と課題について紹介する。

学年	CAN-DO LIST Speaking（Production）
1	身近な話題やにかほ市のことについて20秒程度、話し続けることができる。
2	身近な話題やにかほ市のことについて40秒程度、話し続けることができる。
3	身近な話題やにかほ市のことについて60秒程度、即興で話したり、質疑応答したりできる。

活動Ａ（２年生）

（１）目標　・外国からの旅行者に、鳥海山について自分の体験を加えて紹介することができる。
・各グループの発表に対して質問し、また該当グループはその質問に答えることができる。

（２）指導の流れ

・本冊子（Mt.Chokai / Hokodate Observatory and Trailhead) の学習
・Topicの選択、スライドの共有等Chromebookの用い方、役割決め
・スライド作成
・JTE、ALTとのプレゼンテーションの練習
・クラス全体へのプレゼンテーション／評価シート記入
・質疑応答

成果と課題

○Chromebook・電子黒板の活用

・Chromebook と電子黒板により、課題の共有やスライド作成時の情報交換の効率化等ができた。具体的には、Chromebookでクラスルームにスライドのテンプレートを配付し、リーダーがスライドを他の班員と共有することで、グループごとに協力しながら１つのプレゼンテーションのスライドを作成することができた。教師側も各グループの進捗状況の確認やアドバイスを効果的に行うことができた。

・実際に生徒が登山した経験からのアドバイスや感想を英文で書く課題をクラスルームで配付し、スプレッドシートに入力させた。お互いの英文を見て、なるべく他の人と違う体験や感想となるように工夫したり互いの感想を共有したりすることができた。

○本冊子の活用と応用

・グループ分けの際に、alpine plants / height・nick name / events / famous for～ / visitor center の５つのテーマと、Tembodai / Ohama・Chokai Lake / Sainokawara / Shimegake / Omonoimi shrineの５つの場所から１つずつ選択させた。このことで、同じ鳥海山のプレゼンテーションでも、それぞれの班が違うテーマ、場所についての体験や写真を発表することになり、発表に対するモチベーションをより高めることができた。

○英語でのやり取り

・１年次は、発表に対してＡＬＴによる質問に答える活動が主であったため、発表毎に質問する班を割り当て、英語の質問を考える時間を与え、その質問を電子黒板に書かせた。このことで、各班は質問に対する答えを準備する時間を確保でき、生徒間での英語のやり取りにつながった。今後は、即興での質疑応答ができるように、英語でやり取りをする機会を毎時間の授業でも多く設けていきたい。

○その他

・発表を聞く際にはワークシートにキーワードをメモすることで理解を深め、英語で質問する準備をさせた。しかし、発表を聞きスライドを見ながらメモをとるという活動はとても難しかったようだ。英文読解やリスニング等において要点を押さえることを意識した活動を行っていきたい。

・スライドに英文が書かれているグループが多かったため、スライドはキーワードや写真のみでまとめさせたい。また、スライドや原稿を単に読む発表から、聞き手の方を見て、自分の言葉で相手に伝える発表へとレベルアップさせていきたい。

活動Ｂ（３年生）

（１）目標　・新ＡＬＴのJosh先生に、自分の住む地域や自分のことを紹介することができる。
・プレゼンテーションの際は、即興で質疑応答できる。

（２）指導の流れ

・地域の魅力・課題等のスライド①作成・練習
・地域紹介のスライド②作成・練習
・自己紹介のスライド③作成・練習
・授業外でのプレゼンテーション（*冬休みの課題）
・Josh先生へのプレゼンテーション（Speaking Testを兼ねる）

*冬休みの課題

校内の友達と先生合わせて４人、保護者や学校外の友人など２人、計６人にプレゼンする。

成果と課題

○Chromebook・電子黒板の活用

・自分が撮影した写真や動画を入れたり、アニメーションを用いたりするなど、分かりやすく興味を持てるスライドを作成することができるようになった。

○本冊子の活用と応用

・Chromebookを個人で使用できるため、放課後や自宅等でプレゼンテーションの練習を行うことができ、プレゼンテーションの回数を重ねることで、パフォーマンスを改善することができた。

・本冊子を学習してきたことで生徒は、地元について知らないことが多くあると認識することができた。そのため、３年次は本冊子に記載されていることに加えて地域のより詳しい情報についての英文を読んだり、調べたりした。また、相手に紹介するためには、自分が話すことができる英語に直して伝えなければならないこと、自分の経験を交えて話すことで説得力が増すことを、活動を通じて学ぶことができた。

○英語でのやり取り

・スライド毎に聞き手に質問をすることを課すことで、やり取りの機会が増えた。

・個人の活動にすることで、全員が英語でのやり取りに取り組むことができた。

・即興でのやり取りは難しく、語彙力・リスニング力など、総合的な英語の力が必要で、生徒の言語活動を増やすことが大切であると実感した。

・スライドの画面は、英文ではなくキーワードや写真にすることで、「スライドの英文を見て読む発表」から、「聞き手の方を見ながら発表したり、質問したりする活動」に発展することができた。

○その他

・生徒は、「新しいＡＬＴの先生に自分の住む地域や自分のことを紹介する」という実践的な目標に向かって意欲的に活動に取り組むことができた。コミュニケーションの目的や場面設定が重要であることを改めて感じた。

・保護者や他学年の生徒、他教科の先生にプレゼンテーションを行い、評価してもらったことで改善点を見つけ、次のプレゼンテーションに活かすという過程を繰り返したことが自信を持つことにつながり、プレゼンテーションをよりよいものに改善していくことができた。

・総合的な探究の時間に取り組んだ「地域の課題解決の活動」を、地域の魅力・課題のスライド発表に活かすことができたことは、横断的な教科指導につながると感じた。

４．まとめ

本冊子を用いた授業は始まったばかりである。どの生徒にとっても、「伝えたい」という気持ちで言語活動を行う実践的な場面を多く設定し、意欲的に取り組んで達成感を持てるような活動にしていきたい。今後、生徒が調べたことや経験したこと等を付け足すなどして改訂版を作成する予定である。本冊子を活用して自分の住む地域について、にかほ市を訪れる人々や、自分が将来住む地域や国の人々に、自信を持って紹介できる生徒を育成していきたい。